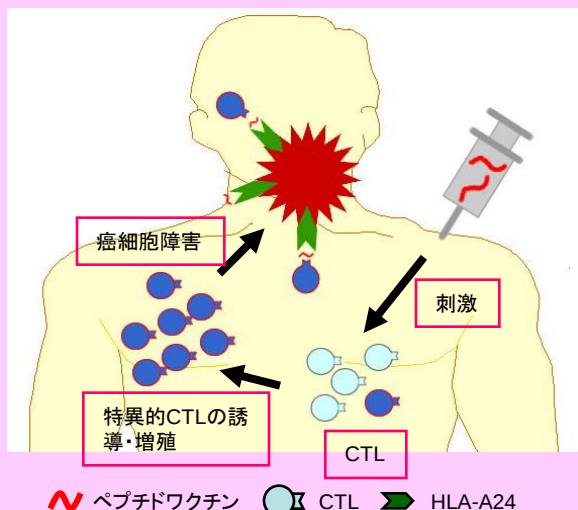


サバイビン遺伝子産物由来ペプチドによる口腔癌に対する ペプチドワクチン療法の開発

(札幌医科大学医学部口腔外科学講座 教授 平塚 博義)

私たちの体の免疫系は体内で発生する癌細胞を監視、排除する能力を持っています。この能力を高める方法に癌ワクチンがあります。癌で高頻度に発現するサバイビン遺伝子産物から日本人に最も多いHLA-A24に提示される抗原ペプチドを合成し、口腔癌患者にペプチドワクチンとして投与したところ、腫瘍マーカーが低下し、腫瘍性病変が縮小しました。現在インターフェロンαとアジュバンドを併用しさらに効果的な口腔癌ペプチドワクチン療法を開発中です。

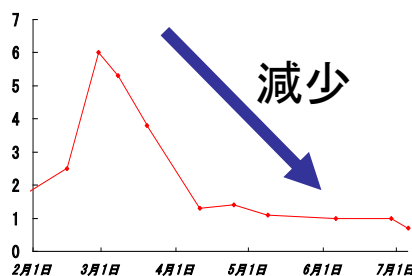
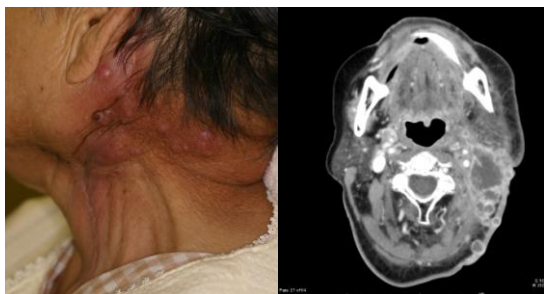


ペプチドワクチンによる口腔癌特異的細胞障害性T細胞(CTL)の活性化

- ①体内に入ったペプチドワクチンは細胞障害性T細胞(CTL)を刺激する。
- ②口腔癌特異的CTLが誘導・増殖する。
- ③口腔癌特異的CTLはHLA-A24上に発現したサバイビンペプチドを癌抗原として認識し癌細胞攻撃する。

臨床試験

治療前



SCC腫瘍マーカーの変化

治療後



6回のペプチドワクチンの投与により腫瘍マーカーの値は減少し、腫瘍は縮小した。

解剖学的に複雑な構造を持つ口腔領域の機能温存は口腔癌治療での大きな課題です。癌ワクチン療法は癌細胞だけを傷害し、副作用も少なく、さらに再発予防効果も期待できる低侵襲な治療法です。私たちは患者様のQOLを高める効果的な口腔癌ワクチン療法を札幌医科大学医学部病理学第一講座と共同で臨床試験を進めています。

連絡先＜ 宮崎 晃亘: amiyazak@sapmed.ac.jp ＞